

剣道のすばらしさ

東京都

東京樺剣士会

小学6年 佐藤 風羽子

私は三歳から剣道を始めて、今年で九年目だ。この九年間で、剣道を通して心も身体も成長できたと思っている。今日はここで、この九年間での学びから自分自身で考えた剣道のすばらしさを伝えたいと思う。

私は剣道以外にサッカーを習っているが、このサッカーと剣道には大きな違いがある。

サッカーのコーチは

「みんなは、うまくなるために練習をしている。」

とよく言っているが、剣道は違う。剣道は「ただ強くなるため」にやっているのではなく、さらに「人としての成長や礼儀を身に付けるため」に稽古をする。私の道場は特に礼法には厳しく、道場の先生は常に言う。

「剣道で強くなって試合で勝っても礼法ができていないと剣道をやる意味がない。剣道をやる資格がない。」

と。

そして私は、生活においても礼法を大切にしなければならないと思い、普段から、大きな声であいさつをすることや、相手の目を見て話を聞くことなどを実践している。

また、サッカーはゴールを決めるとガッツポーズをして、チームメイトと大きな喜びを表現するが、剣道では一本を取ってもガッツポーズをしてはいけない。これは、「打って反省 打たれて感謝」という言葉につながる。自分が打って一本を取った時には、それはまだまだ最高の一本ではないと謙虚に反省する。逆に自分が打たれて一本を取られた、負けた時には、相手に対して「自分の弱い部分を打っていただきありがとうございました」と感謝をする。私はこの「勝っても自分に謙虚であれ、負けても相手に感謝をする」という剣道精神が大好きだ。そして、この剣道精神を、これから剣道をやっていく上でも大切にしていきたいと思っている。

さらに、サッカーは「練習」、剣道は「稽古」という。この二つの言葉の意味を調べてみると、練習は「技能・学問などが上達するように繰り返して習うこと」という意味で、稽古は「古（いにしえ）を稽（かんが）える」という意味だ。私は「古を稽える」という言葉が難しくよく分からなかったので、道場の先生に訊いてみた。すると先生は、「先生の先生から学んだことを子供達に伝承することである」とか、「過去の自分から学び、新たな自分として成長すること」と教えてくださった。そして、「だから稽古に終わりはない」ということもおっしゃっていた。

先生は、子供達との稽古で改めて自分自身が学ぶことがあるとよく話して下さる。また、自分よりも三十歳も年下の先生から学んだ言葉を私たちに教えてくださることもある。その言葉は、「一人になった時の自分が本当の自分である」という言葉だ。これは、他の人が見ていないときにも常に自分に厳しく行動できるかどうか、それが本当の自分であるということだ。この言葉も、自分にとってとても大切な言葉となった。でもそれ以上に、先生が今でもなお剣道の稽古や、剣道での出会いを通して、謙虚に学び続けていることがわかり、さらに私の剣道に対する気持ちを高めてくれたのである。

これらのように、剣道には他とは違う、人として成長する大切な要素がたくさんある。だから私は、これからもずっと剣道を続けていく。そして、私も先生のように、年を重ねても常に謙虚な姿勢で稽古に励みながら、自分自身を成長させていきたい。